
有漏路より無漏路へ帰る一休み【三語即興文】

和波智淳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

有漏路より無漏路へ帰る一休み【三語即興文】

【Nコード】

N9526E

【作者名】

和波智淳

【あらすじ】

三語即興文です。お題は『自称』『無限』『本棚』。制限時間は30分でしたが今回も時間内に完成せず……後で加筆します。

(前書き)

三語即興文です。お題は『自称』『無限』『本棚』。
制限時間は30分でしたが未完成です。後で加筆します。

その女は大したほら吹きだった。

俺が酒飲み話にそう言っただけで聞かせると、お前、よっぽど悪い女に引っかけたんだな、おおかたの知り合いはそう言っただけで笑う。だが、そんなんじゃない。その女は本当に大したほら吹きだった。何しろ自称が「神のようなもの」だったんだから。

「本当かよ」

当然、俺は真っ先に訊き返した。すると女は、俺の顔を見上げてにっと笑った。

「ううん、嘘。本当はただの人間」

「冗談かよ……」

俺が不快そうな顔を見ると、女はますます笑みを大きくした。

だが普通、こんな状況で自分を神と言う奴がいるだろうか？ 気の知れた仲間の軽い冗談なら構わない。本気で神を自称する奴はどこか狂っている。俺はそう信じているが、この時の状況はどちらでもなかった。

大学の図書館の黴臭い書架の間。何度目だか忘れたが、とにかく初めてではなかった、そこでその女と出会ったのは。

「うん、これ、私の本棚」

「いいんだ、もう持ってるから」

「何だ。ただの異空間ポケットだろ。」

「今度さ、に行ってみようと思ってるんだ」

「？」

俺は耳を疑った。

「やめとけ。あすこは変な国だ。変な国つつーか、ずっと鎖国して

る危ない国で……」

「知ってるよ。聖教会とかいう宗教勢力が支配してる星系。文化もかなり独特で、他の星系との関わりはほとんどなく、外星人嫌いも激しい。ただ、ここキャセイ星系だけが、年に一度の聖教会の大祭に合わせて定期船を送ってる」

「よく知ってんじゃないかよ……」

「まあ、外国に行く以上は普通、その国のこと事前によく調べるよね」

女は得意そうに笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9526e/>

有漏路より無漏路へ帰る一休み【三語即興文】

2010年10月9日05時48分発行